

教科	地歴・公民科	科目名	歴史総合	単位数	2
学科	全学科	学年	3 学年	履修区分	必修
使用教科書	詳述歴史総合 新訂版(実教出版)				
副教材など	ダイアログ歴史総合(第一学習社)				

## 1. 科目の目的

歴史総合の学習を通して、我々の生きている現代はどういう時代であるのか、現代はどのような歴史の結果として現れているのかを学び、さらに、それが我々の将来をどのように規定しているのかを考える。特に、過去を現在との関わりにおいて考えると同時に、現在の反省の上に立って未来を築いていく態度を養う。

## 2. 授業の内容と進め方

- ①比較文明的視点を考慮するとともに、各時代の中に日本を位置づけて考察させる。
- ②地理的条件との関連性に留意しながら風土・民族を扱う。
- ③客観的かつ公正な史料に基づいて歴史的事実に関する理解を深めさせる。
- ④近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養い、現代世界が直面する課題について考察させる。

## 3. 学習する上での留意点

- ①世界の諸地域に成立した諸文明の形成過程と、その歴史・文化の基準となっている風土や民族、言語、宗教などをできる限り基本的な事項に即して学ぶ。
- ②諸地域において発展していく文明が、相互に接触・交流していく状況を、いくつかの特定の時代について客観的に考察する。
- ③現代世界が形成されていく歴史的過程について理解し、世界に対する多角的で柔軟なとらえ方を身につけ、今日の社会が直面する課題について考察する力を養う。
- ④世界史を通して、文明や民族国家の接触、交流の歴史を重視し、未来において日本あるいは日本人として、国際社会あるいは地球共同体にふさわしい態度や行動について考える。

## 4. 課題等について

単元ごとに課題プリントを通じて復習を行う。また、理解が不足している箇所があれば、完全に理解できるまで何度でも添削を行う。

## 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	近現代に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の要因である近現代史を理解するとともに、諸史料から様々な情報を適切かつ効果的に収集し、まとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	歴史総合の学習を通じて得た知識をもとに、人類の課題を多面的かつ多角的に考察し、国際社会の現状を公正な立場から分析する。
主体的に学習に取り組む態度	近現代に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に入れ、課題を主体的に発見、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚を深め、他国や他国の文化を尊重することの大切さを身に付けている。

## 6. 評価の方法

評価については、定期考査での成績、課題プリントや訂正ノートの提出状況や授業態度を総合的に判断する。

- 1) 定期考査(年5回実施)の結果をもとに、学習内容の理解度、定着度を評価する。
- 2) 学習意欲や学習態度など授業への取り組みを評価する。
- 3) 課題プリントや訂正ノートなど提出物の内容および提出状況を評価

《指導計画》 科目名 歴史総合

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4	◎近代化と私たち 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 5. イギリス産業革命 6. アメリカ独立革命 7. フランス革命とナポレオン	①18世紀半ばから19世紀にかけて起こった産業革命と、それにもなう社会構造の変革について理解する。また、アメリカ独立革命の背景・経過・影響について理解する。さらに、フランス革命の推移及びナポレオンの大陸支配とその影響きについて理解する。 ②ウィーン体制とそれに対する各国の自由主義・国民主義の動きについて理解する。また、イタリア・ドイツの統一と東方問題がヨーロッパ諸国に与えた影響について理解する。 ③ヨーロッパ列強の進出によるオスマン帝国の動揺について理解する。また、ヨーロッパ列強の南アジア・東南アジア諸国の植民地化や東アジアへの進出について理解する。 ④日本の近代化と東アジア諸国への進出について理解し、日清戦争・日露戦争がアジア諸国にもたらした影響について理解する。	行動観察	
	5	8. ウィーン体制と1848年の革命 9. イタリア・ドイツの統一と東方問題 10. アメリカの発展と分裂		行動観察 課題提出 中間考査	
	6	第3章 アジアの変容と日本の近代化 11. イスラーム世界の改革と再編 12. 南アジア・東南アジアの改革と再編 13. アヘン戦争の衝撃 14. ゆらぐ幕藩体制と開国		行動観察 課題提出	
	7	15. 近代的な国際関係と国境・領土の画定 16. 日清戦争と日露戦争 17. アジア諸民族の独立運動・立憲革命		期末考査	
	9	第4章 帝国主義の時代 18. 帝国主義と世界分割 19. 緊迫する国際関係		⑤19世紀後半の欧米諸国の対外政策、欧米列強による世界分割について理解する。 ⑥第一次世界大戦の背景や経過やロシア革命が与えた影響について理解する。また、戦後の国際秩序、1920年代の合衆国の繁栄、アジアの独立運動、中国統一の過程について理解する。 ⑦各国の世界恐慌への対応、ファシズムの政権掌握の過程について理解する。また、日本の軍国主義化及び、満州事変や日中戦争の背景と経過について理解する。さらに、第二次世界大戦がもたらした戦禍について深く理解する。 ⑧戦後の国際秩序がどのようにして形成されたのか、冷戦が戦後のアジア・アフリカにどのような影響を与えたのかを理解する。	行動観察 課題提出 中間考査
	10	第5章 第一次世界大戦と大衆社会 20. 第一次世界大戦 21. ロシア革命 22. 戦間期の欧米 23. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 24. 西アジア・南アジアの民族運動			行動観察 課題提出
	11	第6章 経済危機と第二次世界大戦 25. 世界恐慌 26. ファシズムの時代 27. 満洲事変と軍部の台頭 28. 第二次世界大戦と太平洋戦争			期末考査
12	第7章 冷戦と脱植民地化 29. 国際連合と戦後世界 30. 冷戦の開始 31. 朝鮮戦争と日本 32. 植民地の独立と第三世界の出現				
三 学 期	1	33. 米ソ両陣営の動揺 34. 石油危機と世界経済 35. 緊張緩和から冷戦の終結へ 36. 冷戦体制の終結	⑨1950年代以降の冷戦の経過について理解し、冷戦の枠組みの中での世界の動きについて理解する。そして、冷戦がどのようにして終結したのかを理解する。	行動観察 課題提出 期末考査	
	2				
	3				